



3 NGOsとサイド・イベント

CSW66 直前勉強会 3月3日

国連NGO国内女性委員会
紙谷雅子



14-25 MARCH 2022

CSW66
COMMISSION ON THE STATUS OF WOMEN

**CLIMATE CHANGE • ENVIRONMENT
DISASTER RISK REDUCTION**

GENDER EQUALITY AT THE CENTRE OF SOLUTIONS

CSW66の優先的テーマ
気候変動・環境・災害リスクを減らそう
ジェンダー平等こそが解決策

国連女性の地位委員会
2022年3月14日から25日まで

私たちのCSW66

日本の3NGOs が国連日本政府代表部と共催する
サイド・イベント

エシカルな意識と行動が世界を変える

環境問題へのあらゆる人の参画へ向けて

国連代表部って，日本の3NGOsって，何？

国連日本政府代表部は 

・・・日本の政府が国連に常置する・日本を代表する機関



3NGOsは，それぞれ女性の地位向上をめざして設立された民間組織

- ・北京行動綱領（1995年）と「2000年国連総会成果文書」などの実施状況について監視し，日本政府に対してさらなる実施に関する提案をする「JAWW（日本女性監視機構）」

- ・1975年の国際婦人年をきっかけに，「平等・開発・平和」の実現に向け，全国規模の41の女性団体が思想・信条・分野を超えて結集し，1998年には国連経済社会理事会の特別諮問資格を獲得した「国際婦人年連絡会」

- ・日本が国連総会に代表団を送ることになった1958年に，日本の女性の声を反映するため，政府の代表団に民間の女性が参加することの重要性を指摘し，これまで途切れることなくその支援をしてきた「国連NGO国内女性委員会」

私たち 3NGOsは、2009年のCSW53から国連代表部の後援を得て、2012年のCSW56からは国連代表部との共催で、サイト・イベントを行ってきました。

テーマは、災害リスク，女性に対する暴力，男女における経済格差，教育，ケア，高齢化社会と女性，農山村におけるジェンダー平等，精神的経済的な女性の自立，納税者としての女性，女性の政治的リーダー

・・・など，

さまざまな分野での女性たちのエンパワーメントをいかに実現するのか，できれば，そのヒントを提示したいと，企画しています。

サイド・イベントって、何？

パラレル・イベントって？

サイド・イベントも、パラレル・イベントも、国連女性の地位委員会の正式なプログラムとは別に組織された、委員会のテーマやジェンダー平等に関して重要な問題を人々が議論し、検討する重要な活動です。

サイド・イベントは、各国代表部、政府間機関、国連の諸機関・機構・組織が主催する企画で、UN Womenは自らのプログラム・スケジュールの一部として取り扱っています。

パラレル・イベントは、多様なNGO（非政府組織）が主体となって企画し、NGO CSW/NYという経済社会理事会の諮問資格を得た団体が調整しており、CSWに正式に登録しなくても、NGO CSW/NYに登録することで、参加することができます。

国連本部でCSWが開催されているときに、その敷地内で開催されたサイド・イベント参加には事前の登録や国連パスが必要でしたが、ヴァーチャルな世界では、関心のある企画に登録すれば誰でも参加できるようになりました。

エシカルな意識と行動が世界を変える

今回、ジェンダー平等Gender Equalityとともに、
私たちが意識したのは

世代間の平等Generation Equalityです。

どの世代も、次の世代にはより良い生活、より良い社会が可能になるよう望んできました。私たちの祖先はその子どもたちが必要な食糧と水を手に入れられる、安全で快適な生活を望んでいたことは確かでしょう。

私たちの世代の多くは、経済成長が社会のさまざまな問題の万能薬になると期待しました。が、経済成長の重視は良いことばかりではありませんでした。（帝国主義・植民地時代や封建時代と比較すると、よりひどくなったのかは疑問ですが）経済格差は顕著です。（植物相、動物相の激減に代表される）環境の悪化は、私たちの自己中心的で他の生命に対する配慮不足がもたらしたものだと思われます。私たちは「欲張り」過ぎたのかもしれない。

そのような短絡的，自己中心的な行動は，
私たちが受け継いだよりも「良くない」地球
を次の世代に伝えることになります。

私たちは，より良い生活，より良い社会を
可能にするという人類のミッションに失敗し
てしまったのでしょうか？ 取り返しがつか
ない状況なののでしょうか？

経済成長驀地からの方向転換は 不可能なのでしょうか？

経済成長がもたらした弊害の影響をもっとも受けているのはさまざまな方針形成や決定からもっとも離れたところにいる人々，その多くは女性たちであり，子どもたちであるというのが，私たちの認識です。決定権から遠くにいる人たちの声は，なかなか「決定権」を持っている人たちには届きません。

それでも，私たちにできる「現実的な小さな一歩」という提案ができるのではないかがというのが，今回の企画の趣旨です。より良い社会という目標を実現する「ちょっといいこと」を「エシカルな意識と行動」と表現してみました。

企画では4人のパネリストをお招きしました

- ・エシカル協会の代表の末吉里花さんは、私たちが購入し、消費するときに、「物」の生涯、どのように生産されていたのか、どのように商品として提供されているのかを考えることについて、お話しくださる予定です。
- ・「ごみゼロ宣言」をした徳島県上勝町で大塚桃奈さんは、「ゼロ・ウェイスト・センター」に勤務して循環型社会の実現をめざしています。彼女の話からは、私たちができることを学び、実践に結びつけることができそうです。
- ・スウェーデンのカール・リンドベリさんはユネスコでも活躍していました。そのお話からは、教育を通じての持続可能な開発の理解促進と実践に結びつくアイデアがあるのではないかと考えています。
- ・JICAの内川知美さんは、キルギスでの一村一品プロジェクトを通じて、国際協力におけるジェンダー平等とエシカル消費についての例をご紹介します。

というわけで、あまり耳慣れない
ethicalという言葉ですが、
あまり難しく考えずに、
ぜひ、ちょっとだけでも、
CSW66のサイド・イベントにオンラインで
参加していただけると、
そして、
日々の生活に結びつけていただけると、
企画した私たちとしては大変嬉しいです。

ありがとうございました。